

イスラエル・ハマスの戦争

私はこう考える

山内昌之



ガザ地上作戦は 二重の愚策



ハマスの戦闘員

歴史学者で東京大学名誉教授の山内昌之氏（76）は、日本における中東・イスラム地域と国際関係史研究の第一人者だ。『民族と国家』（文春学藝ライブラリー）や『中東国際関係史研究』（岩波書店）などの著書も多数ある。そんな山内氏は、イスラエル・ハマスの戦争をどう見ているのか。

イスラエル軍が、イスラム過激派組織ハマスが実効支配するパレスチナ自治区ガザへの本格的な地上作戦に踏み切る可能性が高まっています。

私はイスラエルによるガ

ザへの地上侵攻はすべきではないと考えます。

ハマスの攻撃に対するイスラエル市民の怒りや悲しみは当然わかります。しかし、彼らにとって、あまりに高つく作戦になる自衛権の特性も合理的に理解せねばなりません。

ガザ侵攻をすべきではない理由は「人道的観点」と「戦略的観点」の二つから説明ができます。

ガザは世界で最も人口密度が高い地域の一つです。そこに三十六万人もの予備役を招集した世界屈指の兵力が地上侵攻したらどうなるか。ハマスはガザの人口

稠密地に攻撃拠点を置いていますから、そこを攻撃すれば民間人の犠牲は避けられない。結果としてジェノサイド（大量虐殺）のよう

な非人道的事態になる恐れもあり、人質解放にも失敗する危険があります。

イスラエルからすれば、ガザ攻撃は「自衛権の行使」の一環かもしれません。しかし、地上作戦まで踏み込めば、明らかにプロポーシ

ヨナリティ（均衡性）を欠いてしまう。イスラエルは統治責任を負う国家としてハマスとは違い、犠牲者を最少化すべきなのです。

第二に、戦略的にもガザ

侵攻は、関係諸国にとってあまりにも不利益が大きい。

イスラエルはガザ侵攻と大量報復によって、国際的にはユダヤ人国家としての道徳的優越性を自ら否定しかねない。欧州で史上最大のジェノサイドの犠牲にな

ったユダヤ人が、ハマスの挑発があったとはいえ中東で別種のジェノサイドの渦を引き起こしてはならないのです。犠牲者が増えてイ

スラエルが未来の世界史で厳しい審判を受けることこそハマスや背後にある国々の狙いに他なりません。

中東諸国が受けるダメージも大きい。二〇二〇年の

イスラエルのネタニヤフ首相



山内氏の最新著書
山内氏